

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270800396		
法人名	有限会社 グループホーム高野の里		
事業所名	有限会社 グループホーム高野の里		
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市志佐町高野免631-4 (電話)0956-72-0568		
評価機関名	SEO ㈱福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年 10月 10日	評価確定日	平成 19年 12月 12日

【情報提供票より】(平成19年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築(改築)
建物構造	木造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,600円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150円	昼食 250円
	夕食	300円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2	4名			
要介護3	1名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	2名			
年齢	平均	80歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊地病院	太田歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を緑の山々に囲まれた山間にある環境の中、「高野の里」はある。民家を改装して建てられており、運営者自らが中庭にウッドデッキを手作りしており木の暖かさが落ち着いた雰囲気をかもしだしている。小鳥のさえずり、自然の風、おいしい料理、そして笑い声と、皆が生き生きと楽しく過ごせるよう、職員も取り組みを続けている。平成18年11月に管理者が変わり、新しい管理者を中心に、新体制で業務の改善やさらなる取り組みに向けたアイデアを出し合い、職員のミニ勉強会も毎月おこなうようにしている。ホーム内に看護師が配置されているため、ご利用者の健康管理、異常の早期発見、早期治療への対応も迅速におこなわれている。畑で、きゅうり、おくら、ねぎ、なすなども栽培し、ご利用者も、その方のペースでゆくりと過ごされており、野菜の収穫、調理の下ごしらえなど、長年培ってきたお力の発揮を日々されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題として地域との交流、緊急時・感染症対策があがっており、地域との交流に対しては、自治会加入、夏祭りの開催をホーム内で行い地域の方との交流に努めている。緊急時・感染症対策については職員間で話し合い、マニュアルを作り勉強会を行っており、改善に向けた取り組みを積極的におこなっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をおこなうにあたり、管理者が各職員に、項目ごと均等に自己評価票の担当を決める形で取り組みを開始した。運営者も評価に前向きな姿勢で、運営者が記入したものを管理者に渡し、それをすべて合わせて職員全員で評価、検討を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の必要性は感じているが、まだ実施できていない。開催の方法、メンバーの選定など検討中であり、市役所にも2回ほど開催に向けた相談をおこなっている。現在その情報収集を行っている段階である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは、来訪時に意見や要望を尋ねている。遠方の方や必要時は、電話で連絡し、なるべく多くの意見をいただくような取り組みはしている。今後、運営推進会議の開催を行い意見の把握に努めたいと考えているとともに、ホーム便りを作成していき、ホームでの生活がより詳しく伝えられるようにしていきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	環境的に、かなり山間いの上の方にあるホームなので、日常的に地域の方と交流する機会は少ない。そのため、少しでも地域の方との交流をはかる目的で、ホーム主催で夏祭りを開催している。地域の方にも案内状を出し、ホームに遊びに来ていただく働きをしている。昨年4月より自治会に加入し、回覧版をまわす中で少しずつ近所付き合いもできてきている。回覧版の中で得る地域の情報のなかで清掃など参加できるものは参加予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者、前任の管理者を中心として作られた理念を中心としながらも、さらに現職員でより良い理念となるための検討を重ね「一緒にゆっくりと」を重点に置いた理念を作り上げている。地域密着への思いはあるものの、どのように表現してよいかかわからず、まだ盛り込まれていない状況にある。	○	ホームの課題の一つが「地域密着」であり、長年、この「地域密着」に向けた取り組みをおこなってきた経緯があらわれる。その実績を踏まえ、運営者、職員全員で、地域密着型サービスの理解をさらに見つめなおすとともに、その役割を検討していく中で、住み慣れた地域の中でその人らしく関係性を継続していくことを、ご自分たちが一番しつくりとくる表現をされていかれてはいかがだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の現場や会議の中で理念の言葉を伝えている。月1回の会議の場では、職員全員で理念について考える機会をもっている。日々のケアの場では、職員間で「ゆっくり」と言う理念の言葉をお互いに声かけをし、実践しているつもりであるが、一つ一つの具体的な取り組みやケアの検証まではできていない。本当に実践できているかどうかを、今後一つ一つ検討していきたいと考えている。	○	再度、理念の1つ1つの意味を見つめなおし、一人一人の職員が、個々のケアの現場で実践できているかを全職員で評価し、良い点、改善すべき点を出し合い、話し合うことで、今後、さらに理念に即したケアが実践されていくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入により、回覧板を回す機会が増えるなど、近所付き合いが深まり、昨年からは開催している夏祭りにも地域にチラシを配布したこともあって昨年度より参加者の増加があるなど地域へ少しずつ溶け込まれている。市主催の文化祭の作品展へご利用者の作品を出品する予定であったが、作品を出品するコーナーが中止になり出品できない状態になった。	○	山間いの上の方にあるホームなので、地域の方との日常的な交流が難しい状況の中、ホーム主催での夏祭りを開催するなど、ホーム側から地域との交流をおこなう姿勢を持っている。今後、運営推進会議を開催することで、作品を展示する場所の情報を地域の方々からいただけるようになる可能性もあり、今後も、あきらめずに地域との交流、付き合いを取り組んでいかれてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで「単に仕事をする」と考えるのではなく理念を考えるなど基本的なおろそかにしてはいけないことを再認識したり利用者の態度の意味を理解しサービスの質の向上に努めている。自己評価をおこなうにあたり、管理者が各職員に、項目ごと均等に自己評価票の担当を決める形で取り組みを開始した。運営者も評価に前向きな姿勢で、運営者が記入したものを管理者に渡し、それをすべて合わせて職員全員で評価、検討を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の方法がわからず、他のグループホームに情報収集をしている段階であり、まだ実施できていない。メンバーの選定をおこなっているところである。	○	運営推進会議を開催することで、ホームの課題の一つである、「地域密着」に向けての情報交換がおこなわれる可能性も高く、より多くの方から意見をいただける場である会議の開催が1日でも早く開催されることを期待したい。他のグループホームからの情報をもとに、会議の開催に向けたホームの考えをまとめ、市役所の担当の方とともに、実施に向けた検討会議がなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の窓口には介護保険の申請代行時訪問している。運営者はスプリンクラーの設置の件で市役所に相談に行ったり、運営推進会議のための開催のための働きかけを2回ほど行い現在検討されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、全家族に毎月利用請求書で報告しているが、利用者の暮らしぶりや健康状態に関しては、必要時、個別には報告しているが、全員に定期的に報告しているとはいえない状況である。面会時には職員の異動についても報告している。	○	ホーム便りを年2回程発行することが検討されている。個々の家族がどのような情報を知りたいと思われているかを把握し、個々に応じた報告、連絡が定期的におこなわれていくことを期待したい。毎月の請求時に、請求書のみ郵送ではなく、日々の暮らしぶりや健康状態の記録(お手紙)なども一緒に同封されるのも良いのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム側に、家族が意見や要望を伝えるにあたり、管理者や職員は「家族は遠慮しているのではないだろうか」と常に考えている。面会時や電話連絡時、ケアプラン作成時などに、意識して「何かあったら言ってくださいね」と家族に声かけし、意見を求めているが、毎回、十分に話せているとはいえない状況である。	○	意見、苦情箱は設置しているが、今後も、家族の来訪時や電話のときに、何度も繰り返し職員が声かけをして意見や要望を汲み取っていくことを続けるとともに、運営推進会議を開催し、家族の意見を出せる場を作っていくなど、今後、さらに家族の意見を率直に話していただける取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員に長く働いてほしいと考えており、職員の意見や要望を会議の場や食事会で聞いている。昨年の秋以降は離職者も無く現状維持ができており、まだ十分に職員の補充ができておらず、求人を続けている状況である。職員交代にともなって、ご利用者へのダメージを防ぐ取り組みとして、新人職員への十分な引継ぎをおこなうなど配慮をしている。	○	運営者の方が、なるべく職員の意見を多く聞こうとする姿勢があり、今後も、運営者の方が、ケアの現場にさらに多く入ることで、実状を把握するとともに、職員の意見、アイデアを聞いていくことで、今後も職員が働きやすい環境を作っていくことができると思われる。運営者、管理者、職員のチームワークがさらに強くなっていくことで、ケアの質の向上につながることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者に対し、管理者から、研修に参加したいことをお願いし、今年度初めて研修に参加することができた。職員研修への参加は有給扱いにされており、運営者も研修への参加を積極的に支持している。また、毎月、会議のときに、「食中毒について」などのミニ勉強会をおこない、職員のスキルアップをはかっている。今後、職員が充足していくことで、さらに外部研修に参加する機会を増やしていきたいと考えている。	○	外部研修に参加できるなど、改善してきている項目であるが、職員数が充足し、より多くの外部研修を受講できるよう、今後、管理者を中心に育成計画を作成していきたいと考えており、個々の職員の能力、経験、習熟度に応じた育成がおこなわれていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が、個人的に他施設を見学したり、交流はおこなっているが、現在、グループホーム連絡協議会などには参加していない。運営者も、同業者と交流する機会を持つことやネットワーク作りについての理解はされているが、まだ実施までにはいたっていない状況である。	○	職員数が充足し、外部との交流が持てるようになったときに、意識して、同業者との交流をしていき、さらにネットワーク作りができていくことで、質の向上に向けた取り組みが深まっていくと思われる。まずは、運営推進会議の開催に向けて他グループホームの方々と情報交換をすることから進め、さらに今後はケア面での情報交換をしていくことなどに展開されていかれても良いのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族や在宅の担当ケアマネジャーから情報を得て、ご利用者が通所しているデイサービスや入院先の病院などを訪問し、顔なじみの関係を作っている。また、入居前にホームの見学をしていただき、ご本人には、家族から入居に関する説明をしていただくことで、なるべくご本人が納得したうえで入居していただくようにしている。入居後は、家族にも時々来ていただき、不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者には、料理の仕方、味付けの仕方、また「生きる知恵」なども教えていただいている。ご利用者から、いつも「ありがたい」「おいしいよ」「お疲れさん」などのねぎらいの言葉をかけていただき職員が日々励まされている。職員は、より多くのことをご利用者から教えていただけるよう、個別に喜怒哀楽を把握し会話を大切にして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ご利用者と一緒に、テレビを見ながらさりげなく行きたいところや食べたいものをお聞きしたり、ドライブ中、景色の良いところでは思いを良く語ってくださるため、なるべくドライブにお連れして思いの把握をしている。また、入浴中やゆったりしているときなどを大切に日常生活の中でお一人お一人思いや意向を把握するように努めている。言葉で表現できない方は、家族から好きなことを聞いたり表情を読み取り思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員中心に介護計画を作成している。必要に応じて、かかりつけ医や包括支援センターの方の意見をいただくこともある。作成した介護計画は家族にお見せしているが、一緒に話し合うまでにはいたっていない。なるべく、ご利用者主体の介護計画を作成するようにしているが、ご利用者の思い、願い、実際のケアが全員に網羅はなされていない状況である。また、ホーム内での身体ケアは盛り込まれているが、「地域でよりよく暮らす」点に関しては、まだ、全員に盛り込まれる状況ではない。	○	今後、ご利用者、家族と一緒に話し合いをしながら、地域で暮らすという視点もプランに盛り込まれていくことを期待したい。介護計画は「ご利用者に渡すもの」という視点を大切にし、ご利用者もチームの一員であるという視点で取り組んでいかれることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3～6ヶ月程度で行っているが、全利用者について、変化がないかどうか、新たな気づきがないかどうかを月に1回程度、職員間で検討を行っている。計画の見直しの際には、ご利用者、家族に要望を聞きながらおこなっており、変化があった場合は、随時、見直しをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の希望に応じて、家族の自宅にお連れしたり、通院の介助もおこなっている。医療連携体制が取れており、ご利用者が入院されると職員がお見舞いに行き状態観察を行い、入院先の医師、看護師から情報収集し、早期退院に向けた体制ができています。看護師がホームに勤務していることで、ご利用者の健康管理、異常の早期発見、早期治療に結びつけることができ、「長くホームで暮らしたい」というご利用者、家族の願いに対応することもできています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員希望する医療機関に受療できている。職員の中に看護師の資格を保有しているものが複数あり、異常の早期発見には気を配られており、医療機関との連携もスムーズである。職員が通院介助を行っているが受療の内容、時間帯によっては家族に依頼する場合もある。状態については家族から報告を受け利用者の状態の把握に努めている。家族に対し状態の変化のあった場合は速やかに報告し、そうでない場合は面会時に報告している。	○	適切な医療を受けるために、定期的な健診が受けられるようにしていきたいと考えており、今後も、保健センターや協力医療機関に働きかけを続けていかれることを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向け、現在、本人、家族に対して、個々の意向の把握はできていない。その時々々の病状に応じて、医療機関と連携はしてきている。ホーム内で医療処置が必要になった場合でも、ホーム内に看護師も配置されているため、対応できるものであれば行っていきたいと考えているが、重度化や終末期に対してのホームとしての明確な方針がまだ決まってい	○	今後、ホームとしての終末期に対する方針を、運営者、管理者、職員、医療連携機関なども検討し、まずは、方針を決めていられることを期待したい。重要事項説明書等に、重度化した場合や終末期に、どこまでホームとして対応できるかを盛り込まれていると、その内容を基本にしながらご本人、家族の意向を把握しやすいと思われる。今後、関係者を含めた話し合いの場が作られていられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者が馴染まれているため「ちゃん」づけでお呼びすることもありますが、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。誘導の声かけや介助時は入居者の自尊心羞恥心に配慮しさりげなく行う心がけられている。個人情報の管理には気を配り、玄関に面会簿を置くのではなく個別の用紙で来訪者を確認し箱に入れて保管し情報の漏洩防止に取り組まれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方については、希望される外出や買い物についてはできる限り対応している。希望を言われない方についても散歩など声かけして、なるべく外出できるよう日々取り組んでいる。表情を読み取り近くの風景や草花を楽しんだり近くで飼育している猪の見学にでかけたりして希望にそった暮らし方ができるよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者とともに献立を相談したり、野菜の下ごしらえ、配膳、片付け、テーブル拭きなど、お一人お一人の力を発揮したお手伝いをしていただいている。食事中は、職員も同じテーブルを囲み楽しい話題を提供し、一緒に食事をするようにしている。畑で収穫した、きゅうり、なす、おくら、ねぎなど、新鮮な旬の食材を使用し、美味しく見えるよう彩りも大切に食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、週に2回と入浴日は決めているが、希望に応じた入浴ができるようにしている。毎日入る方もおられる。午後の時間帯に入浴しているが、入浴の順番を決めるのに、皆でくじ引きを行い、楽しく且つ公平にゆっくり入浴できるよう工夫されている。入浴拒否のある場合は、職員が代わる代わる促したり、他の入居者をお願いして入浴を勧めてもらうようにして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の得意な方には野菜の皮むきや洗濯物たたみなどを役割としていただき、農家をされていた方には庭の草取りなどをさせていただくなど、その方の生活歴に応じた力、役割を發揮していただいている。折り紙の好きな方には、作品をホーム内に飾ったり、歌の好きな方も多く、職員と一緒にカラオケを楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見ドライブ、行きつけの美容室への外出はされているが、過去、習慣としていかれていた場所を十分把握しているとはいえない状況である。今後、職員数の増加にもない、もっと外出を増やしていきたいと考えている。	○	過去の生活ぶりを把握し、習慣としていかれていた場所を情報収集し、外出支援をしていかれることで、さらにご利用者との話題も膨らんでいくことにつながると思われる。人員体制が整い、ご利用者の行動範囲も広がり、より個別の外出支援がおこなわれることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から夜7時まで開放されており自由に入出りできる状態である。ご利用者の安全確認については、職員が作業する場所や向きを工夫したり、職員同士声をかけあい見守っている。近所の方にも利用者1人での外出の連絡の協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、夜間を想定して、平成19年2月、消防署と職員とともに実施した。その時に、ご利用者の参加はされていないが、消防署への火災通報訓練、消火器を使つての消化訓練、ビデオによる初期消火の大切さも学ぶことができている。	○	ご利用者の参加は、実践的な訓練となるため、今後、一緒に訓練をしていくことを検討してほしい。また、今後、運営推進会議が開催され、「災害対策」に関することを議題にして、地域の協力体制の構築をおこなっていかれることを期待したい。災害に備えた備品の準備は、現在おこなわれていないため、何をどれくらい準備すればよいか備蓄に関する検討、準備も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の嗜好の把握をしており、カレーが嫌いの方には肉じゃがへ等好き嫌いに対応している。嚥下機能低下の方には個別の調理が行われている。食事量については把握し記録されている。献立のカロリーは書籍・資料を参考に作られているが、協力病院の栄養士に栄養のバランスチェックを依頼している。	○	今後、栄養士からのコメントをもとに献立の作成を行うとともに、可能であれば栄養士にホームを訪問していただき、個別に食事摂取の状況を見てもらうなど、より個別の食の支援がおこなえることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花が活けられており季節感を感じさせている。家具は利用者の手の届く高さに置かれ使いやすい配置になっている。民家を改装して立てられており段差には工夫がされ安全面に配慮されている。職員の希望で、運営者自らが中庭にウッドデッキを手作りされており木の暖かさが落ち着いた雰囲気を出している。掃除に使用する消毒薬は臭いの強くないものに変更したり、換気に努めたり、よしずを利用し強い日差しを防ぐよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の窓から、山々が眺めることができる。各部屋には、座椅子、衣類ボックス、ポータブルトイレ等、自宅で使用していた馴染みのものを持ってきていただいている。ご本人、家族の意見を聞きながら、手の届くところ使い勝手のよさを考慮して配置されている。ご家族にも協力していただき、アルバムを持ってきていただいたりしている。		